

平成 18(2006)年エイズ発生動向 概要

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3 ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。平成 18(2006)年 1 年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。

平成 18(2006)年の HIV 感染者とエイズ患者の発生はあわせて 1358 件と前年より 159 件増加し過去最高となり、2004 年以降 3 年連続で 1000 件を超えた。

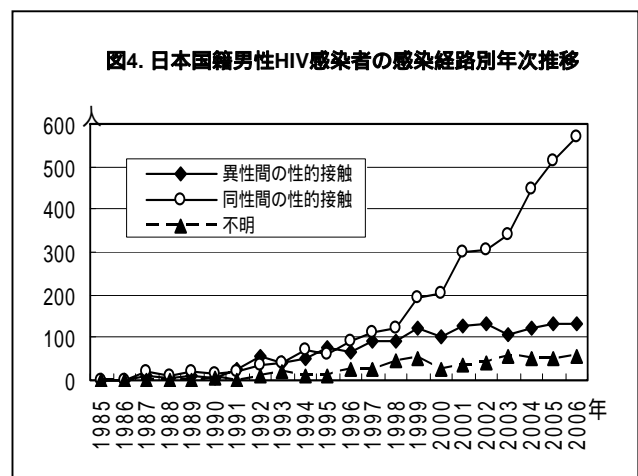
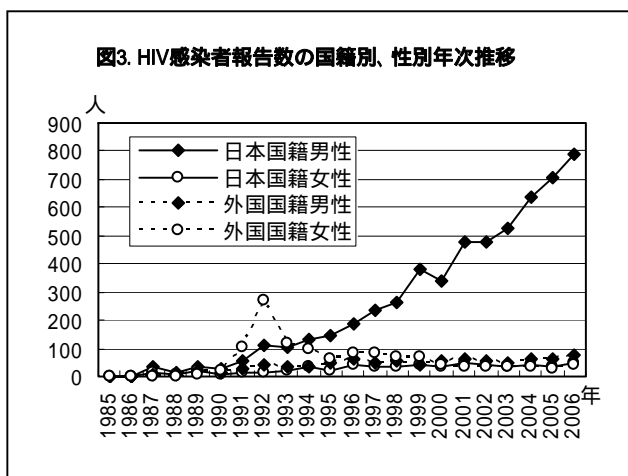
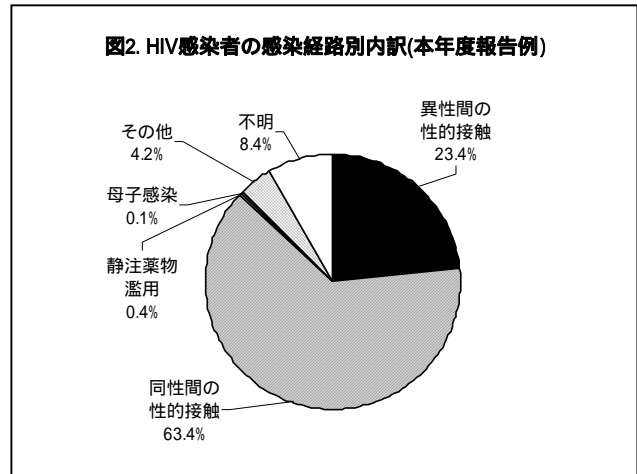
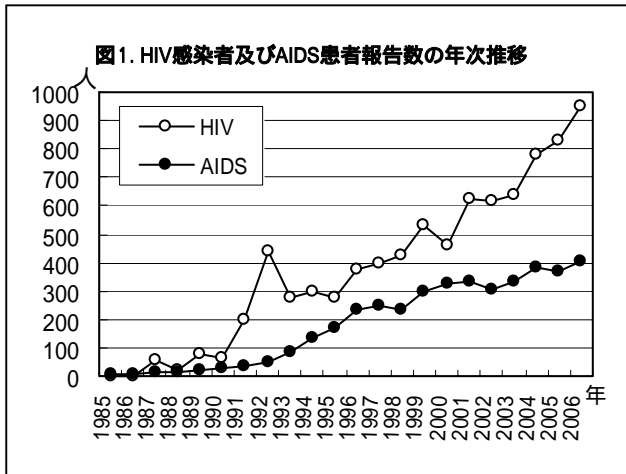
1. 結果

(1)HIV 感染者の報告数

平成 8(1996)年以降増加が続き、日本国籍、外国国籍合わせて 952 件と前年に比べて 120 件の増加で、引き続き過去最高の報告数となった(図 1)。日本国籍例は 836 件、外国国籍例は 116 件で、日本国籍男性例の増加が顕著で、前年(741 件)を上回り過去最高の 787 件となった。日本国籍女性は 49 件と前年(32 件)より増加し、外国国籍例も男女共に微増した(図 3)。

(2)AIDS 患者の報告数

日本国籍、外国国籍合わせて 406 件で前年(367 件)より 39 件の増加であった(図 1)。日本国籍例は 355 件で前年(302)件より 53 件増加したが、外国国籍例は 51 件で前年(65 件)より減少した。日本国籍男性例は 335 件と前年(291 件)に比して 44 件増加し、日本国籍女性例でも 9 件増加した。AIDS 患者報告例の減少は外国国籍男性例に見られた。



(3)感染経路

1) HIV 感染者の感染経路

異性間の性的接触が223件(23.4%)、同性間の性的接触が604件(63.4%)で、性的接触によるものがあわせて827件(86.8%)を占めた(図2)。

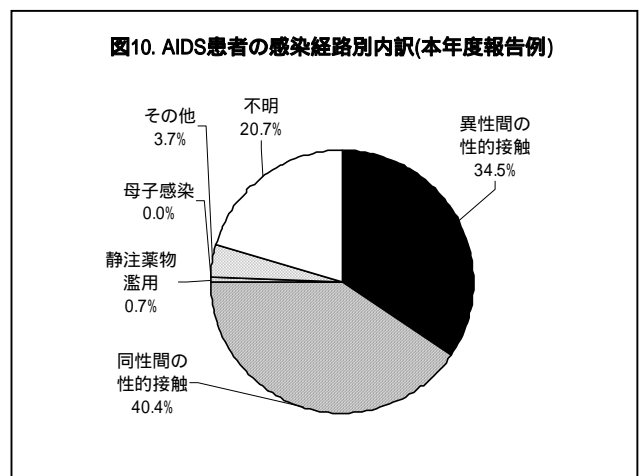
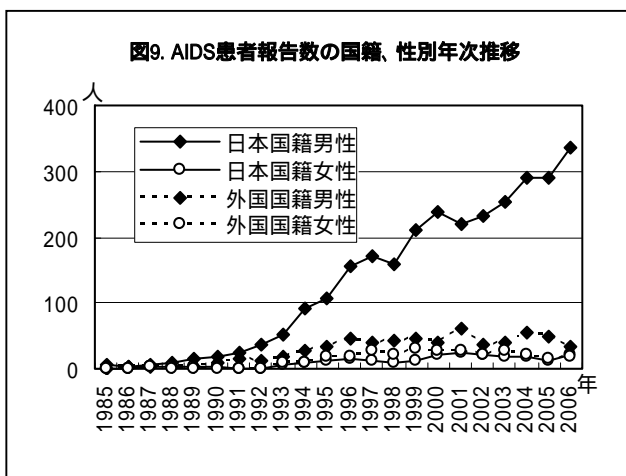
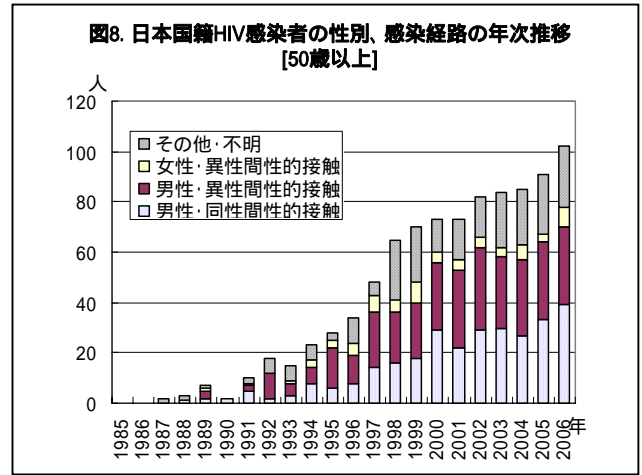
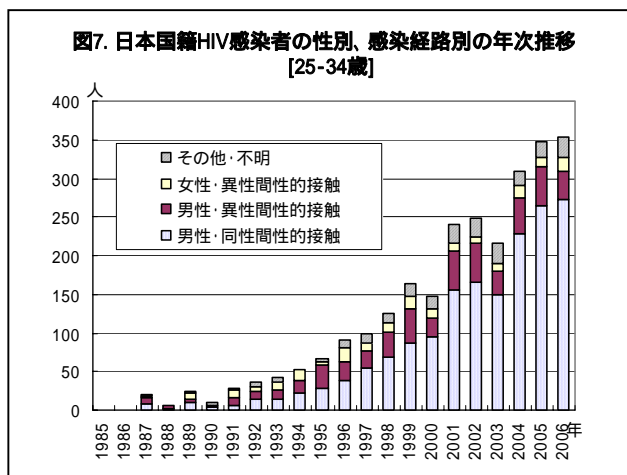
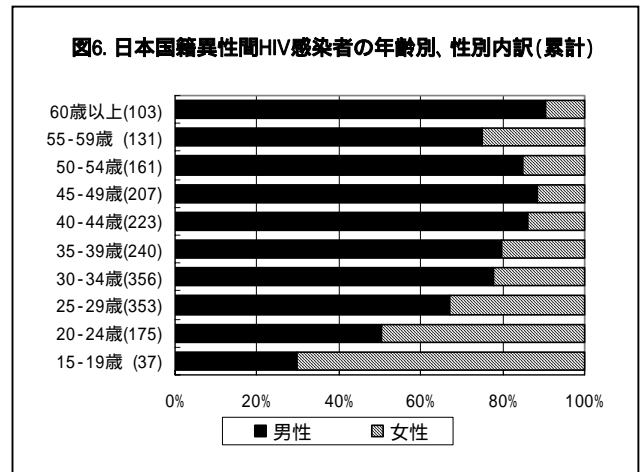
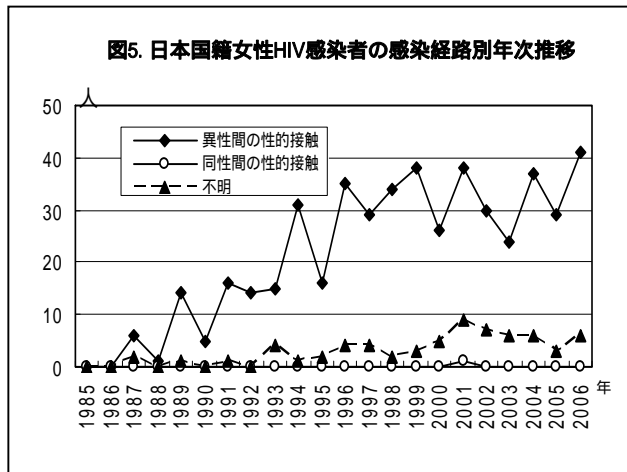
日本国籍例では、男性同性間の性的接触は571件で、前年(514件)に比べて57件の増加となった(図4)。また、男性異性間の性的接触は132件で前年と同数であった。日本国籍女性の異性間性的接触によるHIV感染者は41件で微増傾向の推移であった(図5)。

本年のHIV感染例のうち、男性同性間の性的接触による感染は15-24歳の年齢層では80.2%、25-34歳では77.3%、35-49歳では64.4%を占め、50歳以上でも38.2%と異性間の性的接触(30.4%)を超える割合であった(図7、8)。なお、全年累計における日本国籍の異性間HIV感染者の性別構成を年齢階級別にみると、女性は15-19歳では70.3%、20-24歳では49.7%を占め、男性割合の高い他の年齢層とは異なっていた(図6)。

2) AIDS 患者報告例の感染経路

異性間の性的接触による感染140件(34.5%)に比して、同性間の性的接触による感染が164件(40.4%)と多い傾向にあった。性的接触による感染は合わせて304件(74.9%)を占めた(図9)。日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触は156件(前年129件)、異性間性的接触は110件(前年96件)といずれも前年より多い報告となった(図10、11)。年齢階級別にみると、日本国籍AIDS患者では30歳代、40歳代を中心とした中高年齢層での報告に加え、50歳代以上でも増加傾向が見られる。

なお、静注薬物濫用や母子感染によるものは HIV 感染者、AIDS 患者ともいずれも 2%以下にとどまっている(図 2、9)。



(4)外国国籍のHIV感染者・AIDS患者報告

HIV 感染者は 116 件で前年(91 件)より 25 件増加し、AIDS 患者は 51 件で前年(65 件)に比べて 14 件

減少した。HIV 感染者、AIDS 患者共に異性間の性的接触による感染例は増減を繰り返しつつ横ばいの状況にあるが、同性間の性的接触による感染例は HIV 感染者では 18 件の増加であり(図 12)、外国国籍者への対策も強化する必要がある。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 87.0%(828 件)が国内感染で、日本国籍例では 92.0%(769 件)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は全体の 77.6%(315 件)が国内感染例であった。

報告地は、東京都および関東・甲信越(東京都を除く)ブロックが依然多く、HIV 感染者全体の 55.2%(528 件)、AIDS 患者全体の 52.0%(211 件)を両地域が占めた。HIV 感染者は北海道・東北、関東・甲信越、東京、東海、近畿の地域で増加がみられ、AIDS 患者は北海道・東北、東京、東海、近畿、九州ブロックで増加した(図 13)。報告数の上位 10 位は、HIV 感染者では東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、千葉県、静岡県、栃木県、兵庫県、福岡県、京都府、北海道で、AIDS 患者では、東京都、愛知県、神奈川県、大阪府、兵庫県、千葉県、茨城県、埼玉県、福岡県、長野県であった。

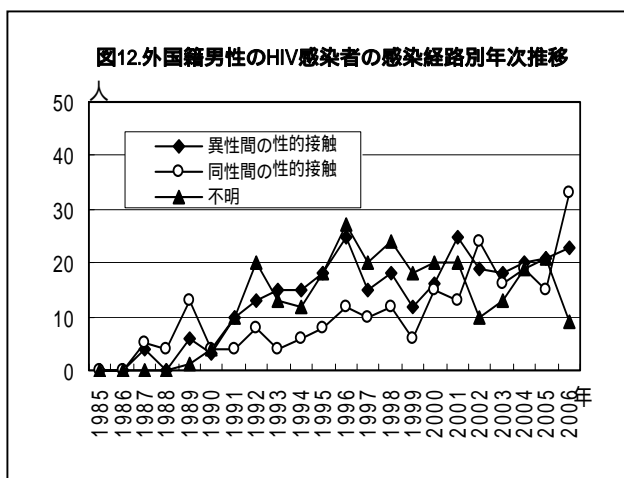
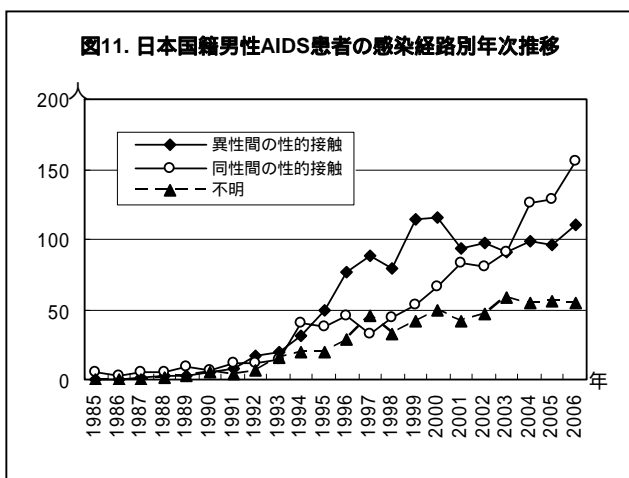
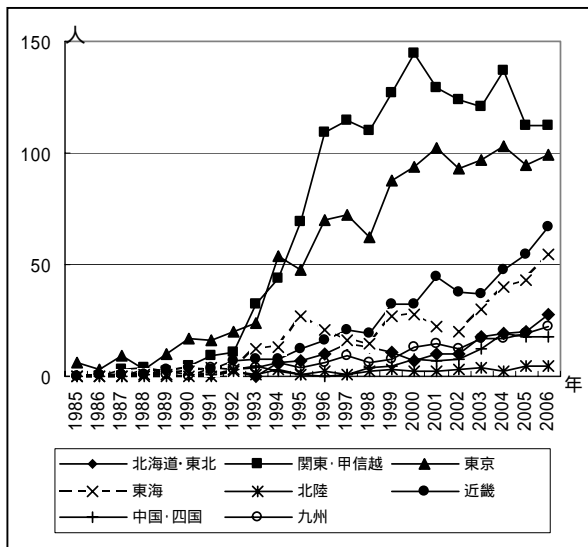
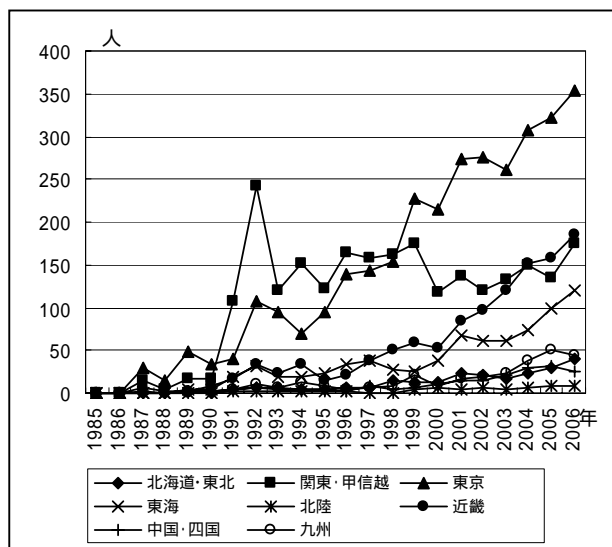


図 13. HIV 感染者および AIDS 患者報告数の報告地別年次推移
(HIV 感染者) (AIDS 患者)



2. まとめ

わが国においては、日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とする HIV 感染者、AIDS 患者報告例の増加傾向が続いている。特に HIV 感染者では同性間性的接触による感染例の占める割合の高いことがほとんどの年齢層で示されている。また、AIDS 患者では 30 歳代、40 歳代を中心とした中高年齢層での報告に加え、50 歳代以上でも増加傾向が見られる。

HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた報告数はほとんどの地域ブロックで増加傾向にある。特に、これまで報告数が多かった東京都および関東・甲信越(東京都を除く)に加え、近畿、東海ブロックの報告数も増加が著しい動向にある。

各自治体にあっては積極的な HIV 感染対策への取り組み、特に 20-30 代、同性愛者及び外国人等の個別施策層を中心とした HIV 感染に対しては、改正されたエイズ予防指針を踏まえ、予防のための普及啓発・早期発見・早期治療に向けた対策を進める必要がある。